

OB・OG 会長の挨拶

—子育ての1年—

第1期ゼミ長 白木 俊介

OB・OG 会誌も、今年で Vol.VIII となりました。毎年「OB・OG 会長の挨拶」というお題で書かせていただき、先頭に掲載されるのですが、そもそも、『挨拶』の語源ってなんだろうか？と 8 冊目にして気になったので調べてみたところ、禅宗の教えに『挨拶』の語源があるようです。

『挨拶』とは禅問答において、一方が相手の力量を測るための積極的な攻め込み、突き進む「挨」があり、すかさず切り返し、切り込む「拶」があって相手の境地、力量を見定めあう丁々発止のやり取りの様子をあらわした言葉。一方が言葉を投げかけて、その反応から相手の禅僧としての値踏みするわけで、決して油断はできない。そんな状況の中で相手に気を向け、また向けさせて心を通わせる手段。

挨拶は、相手に気を向け、また向けさせて心を通わせる手段ということなので、堅苦しい内容は抜きにして、例年同様に冒頭から自分の身の周りに起きた近況を素直に、不恰好に伝え、ありのままの自分をさらけ出して、心を通わせていきたいと思います。

◆育休取得の経緯

昨年度の OB・OG 会誌を見てもらえば分かるのですが、会誌をお持ちでない人もいると思うので、簡単に私の状況をお伝えしておきます。2013 年 12 月 22 日に第 1 子（長女）が生まれ、それに伴い、男性としては前代未聞ですが、育児休業を取得しました。なぜなら、昨年 2 月に看護師の国家試験を受験、3 月に聖路加看護大学を卒業して、4 月から看護師として新たなキャリアに挑む妻に華々しいスタートを切ってもらいたく、妻が働きに出て、夫が家を守るという攻守交代に試みたからです。今年は、そんな育児休暇中の子育てについて語ってみたいと思います。

◆子育てと「時間」

子育てについて語り始めたら、きっと様々な答えが出てくるのでしょうかね。「育児は愛情」という人もいるだろうし、「育児と教育」に重きをおいて 0 歳や 1 歳からの知育をする人もいます。そのような中で、最も印象に残った言葉はとてシンプルでした。

「子どもは一緒にいた時間だよ。」

これは、映画「そして父になる」で、世間から見たらダメな大人だけど、子どもとは仲良しな父親を演じているリリーフランキーが、バリバリに仕事をするサラリーマンを演じている福山雅治に言った言葉です。毎日、働きに出ている父親からすると、この言葉はとて辛く、拒絶したくなる言葉だと思います。

多くの父親は短い時間しか子供と接することができない中で、子どもの印象に残ることをしてあげたいと思うでしょうが、主夫として世の中のお母さんと同じくらい子育てをした上で感じたことは、子育てと「時間」は、切り離せないものだなあということです。子育てを始めるまでは、仕事の効率化同様に「育児も効率化できるのではないか。」とっていたところがありました（そもそも、こんなことを考えているのが男性発想ですが）。しかし、やってみて分かったことは、家事は効率化できるけど、育児に効率性を求めることはナンセンスだということです。amazon やネットスーパーを活用したり、離乳食をまとめて料理して、冷凍保存したり



2ヵ月を過ぎたあたりの著者の御息女。3時間おきにお腹が空いて泣いたり、お腹いっぱい機嫌がよくなったりと、このツンデレが、親を「親バカ」にしていくそうです！

することで家事はある程度、短縮できるけど、その結果で生まれた時間は、どんどん、娘の世話に投入されていくのです。お母さんはわが子がなぜ泣いているかわかると言われますが、これもお母さんに備わった能力ではなく、単に、何度も試行錯誤した結果、泣き方の違いを把握しているだけなのだと思います。「ミルクがほしいのか」、「眠いのか」、「うんちなのか」、「おもちゃがほしいのか」などなど。とにかく、いろいろやってみて、正解が見つかるまでやってみる。とにかく、時間をかけた分だけ、赤ちゃんへの理解が進むということなのでしょうね。そうして、子どもと何度も失敗をして、一緒にもがいた時間だけが、子どもとの関係を築いてくのであって、それ以上の方法論はないということなのでしょう。

こんな風にわが子の成長に合わせて世話をしていると、世のお母さんの気持ちがだんだん、分かるようになってきました。昨年の OB・OG 会誌にも書いたのですが、育休の 1 つの目的には主婦や子育てママのインサイトを、身をもって実感すること。その点においては充分すぎるほど実感できました。クックパッドやテレビで特集されている話題の料理（妻の仕事用弁当に「おにぎらず」が最適でした！）を見つけると、すぐにスーパーに買い出しに行ってしまうあたりは、典型的な主婦の消費パターンにおさまっているわけです。子育てに関しても「なぜ、世のお母さんは子どもを公園に連れて行くのか」が分かってきました。それは、きっと、子どもの発育のためという大義名分はあるにせよ、とにかく子どもを疲れさせて、「夜はぐっすり寝てほしい。夜泣きはまじで、勘弁 泣」ということが 1 番の理由だと思います。



5 ヶ月を過ぎた頃の著者と御息女

◆子育ては何が大変なのか？

「子育ては大変だ」と言われる理由の 1 つは、とにかく時間がかかることだと思ったのですが、何かそれだけではすべてを言い表せていないように思いました。うまく、言い表せられないモヤモヤした気持ちを、うまくまとめているブログがあったので、ここで紹介したいと思います（長いですけど…）。そのブログのママによると、子育ての大変さの本質は、時間という概念ではないといいます。

『ママたちが子育ての何が大変だと思っているのか』¹

それは休む時間がないことや睡眠不足という“時間”という概念ではないんです。子育ては自分の意思とは無関係に自分のやろうとしていたこと・したかった行動を子どもに遮られることの連続です。

「ご飯を食べ終わるまでイスに座って食べる」

「トイレに普通に入って用を済ませてからトイレを出る」

「洗濯物をお昼までに外に干す」

「市役所に普通に電話をかけて、話し終わったら電話を切る」など

自分のしたいことを自分の意思に反して途中で他者によって遮られること、そして自分がやりたいことをしている途中で予定外に別のやらなければならないことが次々に舞い込むことがこんなにフラストレーションが溜まるものだというを私も子育てをするまで知りませんでした。

だから同じ睡眠3時間でも3時間後に起きると自分で決めて自分の意思で起きる3時間と自分の意思とは無関係にいつ起きるか予測できない子どもの泣き声で無理矢理眠りから起こされる3時間は違うと言いたい。

同じ昼間の休憩1時間でも自分のやりたいように過ごせ、すべてを自分の思い通りに行動を完了させることの出来る1時間と、自分のやりたいことがあっても途中で子どもに呼ばれたら、どんなにやりたいことが中途半端で気持ち悪くても、子どものもとへ駆け寄り終わってしまう1時間は違うと言いたい。

自分の行きたいタイミングで用が済むまで便座に1人でゆっくり座ってられるトイレとどんなにゆっくり入っていたくてもドアの前で「ママー！」と泣いてる子どもの泣き声を聞きながら慌てて入るトイレは違うと言いたい。

自分の食べたいものを自分の食べたいタイミングできちんと最後まで座って食べられるお昼ご飯と食事の途中でも「おしっこ！」「ウンチ出た！」「牛乳ちょうだい！」「フォークがいい！」と言われる度に席を立ち子どもに食べさせ終わってから食べる冷めたお昼ご飯は違うと言いたい。

でもそれって本当は当たり前なんですよ。だって別人格の人間を相手にしているわけですから。ママのやりたいことが全部叶わなくなるのは仕方のないことだと思います。それでもなぜ自分の行動を途中で遮られることがこんなに苦しいと感じるのか私なりに考えたんですがそれって達成感を得られないから。やり遂げる喜びを実感できないから。ではないかと思ったのです。人は「～をしたい」と思った時その欲求を満たすために脳が体に命令を与えて行動を起こします。つまり私たちの全ての行動例えば「ゴミを拾う」というようなどんなささいな行動であっても「～したい」という欲求から始まっているんです。そしてその目的を達成し欲求が満たされた時初め

¹ 「子育てを大変だと感じる本当の理由」より一部抜粋。 <http://ameblo.jp/licolily/entry-11963547974.html> 参照。

て人は達成感を得ることができます。達成感を得た時私たちの脳内ではドーパミンという別名快楽物質と呼ばれるものが分泌されます。そしてそのドーパミンが分泌されることで、私たちは幸せや満足を感じるのだそうです。でも毎日毎日、同じことの繰り返しが続くような目に見える結果が得られにくい家事と育児をしているママたちはこのドーパミン不足、達成感不足なのではないかなと思ったのです。そして、先程の例えで言えば床に落ちてるゴミを拾おうと腰をかがめ手を伸ばしゴミをつかもうと手を広げたその腕を他者にいきなり遮られた時「ゴミを拾いたい」という目的は達成されず欲求が解消できないこと途中で行動を遮られたことに人はイライラやストレスを感じます。その状態が24時間365日。それが子育てを大変だと感じてしまう大きな要因なのではないかと思いました。

提出書類を部長に渡しに行きハンコをもらうという簡単なことなはずなのに風が吹いて書類は飛ばされやっとなつかんだ書類に同僚がコーヒーをこぼし書き直そうと思ったらコピー機は故障中手書きで書こうと思ったらボールペンがインク切れ、別のペンを見つけ出してやっとな部長へ提出出来ると思い歩いていたらなぜか床からモグラが出てきてモグラにつまづき転んで書類が破れる。そこに経理のエミちゃんが現れて「これとこれ急ぎの仕事だから早く書いてください」と別の書類の山を渡してくる。「あー。。もう!!!」ってなりますよね。子育てしているとモグラが床から飛び出てくることなんて日常茶飯事です。

でも勘違いしてほしくないのはだから子育てしてるママの方が大変とか、仕事してるパパの方が大変とかそういうことを比べたいのではないということ。ママの役割もパパの役割もどちらも大変でどちらも大切です。それでもママたちが子育ての何を大変だと感じているのかちゃんと知ってくれているパパや周りの人って少ない気がするんです。休む暇がないことそれ自体が大変なんじゃない。自分という人間の「～がしたい」という自然な欲求をことごとく途中で遮られ封じ込められたようなそんな閉塞感ちゃんと最後までやり遂げた！という達成感を得られにくい毎日、そしてこの「自分のやり遂げたい気持ちをことごとく他者に邪魔される」というストレスを経験したことのないパパになかなか気持ちを分かってもらえずやりたいこと（夢とかそんな大げなことじゃなく日常の行動のこと）を自分の赴くままに叶えていく世間の人たちが羨ましく感じられたりしてなんだかものすごく1人取り残されたような孤独をママたちは感じたりするのだと思うのです。

◆終わりに

長いブログの文章まで、読んでここまで辿りついた方、読んでくれてありがとうございます。この感情的で長いブログに共感できるようになれたことが、多分、この育児休暇取得の最大の収穫なのではないかと思います。子育てをして感じることは、仕事をしている時のような複雑で高度な課題とは正反対の、人間としての根源的な問題が、そこに存在しているということ。働いていた時では当然すぎて分からなかつ

た根本的な欲求に直視できたことは、これからの人生の上でとても重要な気がしています。なぜなら、何十年も先の話になるのですが、いずれは我々も年老います。その前に自分の親も年老いてきます。年老いた時に、最終的に残るのは幼児と同じような欲望であり、その老人を介護する家族の悩みは子育てをするママと同じか、それ以上に大変だと思うからです。しかし、子育てをしておらず、地位の高かった男性ほど、そんな年老いた自分と素直に直視できないと言われます。増々、医療が発達し、百歳まで生きるのが当然になるかもしれない我々の世代こそ、定年を過ぎて、年老いた時の自分や親とどのように接していくべきかということ、今から考えるべきなのでしょう。今回の休暇は、そんなことを考えるきっかけを与えてくれました。

※追伸

来年の今頃は育休も終了して仕事に戻っていると思います。今回の内容は子育ての話が中心でしたが、その頃には育休中に考えていた仕事やキャリアについて話せられればと思います。



とても幸せそうな表情です！